

2023.11.26

白石の鼻の論文に関して

五藤 孝人

貴重な資料をわざわざ送っていただきありがとうございました。返事が大変遅くなり申し訳ございません。以下、率直な感想と私見・お願いを述べさせていただきます。

はじめに

「白石の鼻巨石群」に関する情報は、テレビや新聞などで概略は知っていましたが、詳細までは把握していなかったもので、とても興味深く読ませていただきました。私自身は今から20年ほど前に、運転免許センターに向かっている途中に、この巨石群に出会い、ずっと頭から離れませんでした。その後、たった3回程度しか調査は行ってはいません。その調査は、地学的な研究からのアプローチと石神の民俗研究の側面からです。

1 論文・資料等に関する感想

(1) 論文からは、太陽軌道との運動に関して科学的に見事に実証されていて感服いたしました。根気強く丁寧で詳細な観測には頭が下がります。また、プレゼンの資料を通して継続して実施されている意欲的な活動の数々の積み上げに圧倒されました。

したがって、論文に関しては、誰も否定できない事実として受け止めることができます。こうした事実を発見したことは素晴らしい出来事として、後世に伝えていく価値のあるものと考えます。

(2) 講演資料「伊予のストーンヘンジ」に関しては、いくつかの疑問が浮かび上がりました。最大の関心事が「遺跡(人工)か自然か」に捉われがちですが、即断できる材料は簡単に集まるわけなく、現在においても世界の巨石遺跡については、未だにほとんどが明らかになっていません。したがって定説らしきものもありません(様々な説が提示されているに過ぎない)。こうした現実をしっかりと踏まえた上で、焦らず慎重に一つ一つ事実を積み上げるしかないと思います。

2 私見として

- ① ○○遺跡・・・・・・・・人の痕跡(遺物)がないと遺跡とは言えない
- ② 「古代」・・・・・・・・古代とはいつ頃なのか(遺物がないと特定できない)

ストーンヘンジ・・・・・・・・	約4000年前	縄文時代中期
エジプト・ピラミッド等・・・・・・・・	約4000年前	縄文時代中期
マヤのチチェン遺跡・・・・・・・・	約1300年前	奈良時代
インカのマチュピチュ・・・・・・・・	約 600年前	室町時代
石舞台古墳・・・・・・・・	約1500年前	古墳時代
- ③ 「ストーンヘンジ」とは、ご存じのようにイギリス南部の環状列石(ストーンサークル)の学術的に認められた正式な名称です。したがって「伊予の・・・・・・・・」の使用については慎重にしないと誤解や反発を受ける可能性があります。

白石の鼻の場合、私の知る限り環状列石の形状は認められず、篠澤氏が命名された従来の「白石の鼻巨石群」を継続して使用されることを望みます。

- ④ 「夏至」「冬至」の太陽観測装置として位置づけるなら、太陽信仰が背景に考えられますが、マヤ文明やエジプト文明のように『暦』が生まれているはずですし、文字(絵文字・記号なども含む)やかなり高度な数学(計算)が必要となります。

天文の歴史からすると太陽を読む装置の原初は「日時計」で一日の時刻を計るだけでなく、一年という周期も計ることができていたことが考古学的に証明されています。さらに、影が一番短い日を夏至、影が一番長い日を冬至と認識できていたことが、メソポタミア文明の遺跡から影の長さを表にまとめた粘土板が出土していて実証されています。しかし、我が国では残念ながらこうした遺物は私の知る限り発見されていません。ただし、世界的な古代文明が発生した地域で使用されていた文字以前の「結 縄」(縄の色や結び目で数や言葉を表した暖簾のような道具)が、沖縄やアイヌの人たちによって幕末まで使用していたことが分かっているので、ここ瀬戸内海沿岸にも伝わっていた可能性もあります。

- ⑤ 巨石群の中でもシンボリックな「三ツ岩(正確には五ツの岩)」と「亀石」については、さらに人工である痕跡を科学的に実証する必要があり、何のために(目的)、どこから(巨石の産地)、どうやって(運搬方法と積み上げ方)、さらに形状の意味・設置場所の必然性などの具体的な解明が不可欠です。

- ⑥ 講演会の資料の中で、特に気になったのが専門家(有識者)の意見で、木村政昭氏の「石の組み方など自然科学的な面からは説明できず、200%遺跡に間違いはない」との新聞報道の記事です。木村氏自身の著書『沖縄海底遺跡の謎』第三文明社(2000年)において、人工説を裏付ける証拠として、潜水調査などにより科学的な計測はもちろんのこと、線刻石板や石器を重要な物的証拠として紹介されています。こうした慎重な科学者としての姿勢が、先の記事からは見受けられません。せめて自然科学の専門家の論文や意見を分析・検証したうえで、発言してほしいものです。尊敬している学者だけに残念です。

※ 現在、自然科学的な視点から、花崗岩の地質と風化と浸食などについて追究しています。

- ⑦ 白石龍神社(竜宮さん)

白石龍神社	
主祭神	トヨタマヒメノミコト ヒコホホデノミコト トヨタマヒコノミコト 「豊玉姫命」「彦火火出見尊」「豊玉彦命」
例 祭	七月六日
由緒沿革	古くから、白石龍神社と称え、五穀漁業の神として尊崇厚く、 <u>諸普請は郡方が行い</u> 、大祭をはじめ祭祀は <u>郡代官</u> が出張して奉行したという。

※ 『愛媛県神社誌』愛媛県神社庁(1974年)より抜粋
ここで重要なポイントは、主祭神の三神は日向神話に登場する神々で、主として「海の神」として位置づけられます。この三神の象徴が「三ツ岩」とも考えられます。なかでも「豊玉姫命」が重要で、「玉」のつく神々は巫女的な存在で

様々な呪術を行っていたことが知られています。民俗学的には、御伽噺の『浦島太郎』が注目され、「豊玉姫命」が「竜宮の乙姫」に当たるという説もあります。「竜宮」とは海底にあるのではなく、西方の海にあるはるか遠いところという意味でそこにいる姫神です。そこを行き来する乗り物が「亀」だということです。龍神社の名称の由来に関わるかもしれません。

ちなみに「豊玉姫命」が祀られている神社の分布は、南九州(特に宮崎・鹿児島県)が最も多く、海人の流れが歴史的に見受けられます。

※ 現在、こうした神話の分析と先住民としての隼人(久米氏)について追究しています。

さらに、あるサイトの情報に下記のようなものがありました、

……最近迄、道もなかったこの場所になぜ祀られたか。……早魃の時には「雨乞い」が行われていたといわれ七月六日(七夕の前日)に大祭が行われているので、海とか雨、水を祀った神社かと考えられます……

※ 『白石龍神社 案内』松山市高浜六丁目町内会、白石龍神社奉賛会の案内板より抜粋

最近まで道がなかったということは、陸路ではなく海から上陸しての参拝が考えられます。このことは「白石の鼻」自体が聖地であり、巖島神社(広島県の宮島)と類似しています。さらに、『神社誌』や「案内板」の記述から判断して、江戸時代には既に創建され、特に漁民の信仰の対象となっていたことが分かります。

3 お願い

ネットで「白石龍神社」に関する情報を集めていたときに、興味深い情報に出会いました。もう既にご存じだとは思いますが、改めてご紹介します。

忽那の零第142話「松山白石龍神社の知られていない話」 探偵釣り師しゅうちゃん

執筆者が地元民であり、子どもの頃の証言として

「三つ石の手前、鳥居側を潜っていたとき、墓石のように字が書かれた石柱を見つけて仲間と触ったら祟りがあるぞと言ってふざけた記憶がある。おそらくだが、今もあるはず。そしてリュウゴンさんに行くと親に言うと、あそこには踏んだらイカン石があるけん、どこでも上がったらイカンぞ!とよく言われました。話によると、むかし石の上に乗って遊んでいた人が、急に動き出した石に連れていかれたという。それは二畳くらいの大きな亀だと言っていました。」

というものです。

こうした証言はとても貴重で、私自身の民俗学の研究においても幾度も経験しています。そこで、まずは「しゅうちゃん」と連絡をとり、「石柱」と「踏んではいけない石」の発見に努めてほしいと思います。様々な謎を解く物的・間接的証拠となります。全くの無駄にはなりません。

おわりに

「白石の鼻巨石群」は、正に奇跡的な聖地として位置づけられます。今後の研究に期待するとともに、私自身、多角的な視点から追究し、協力を惜しまないつもりなので、よろしく願いいたします。